



## Press Release

配信日:2025年11月X日

マリノリサーチ株式会社

〒511-0914 三重県桑名市中山町 60 番

TEL 0594-32-9901 / FAX 0594-32-9902

# 岐阜県と三重県から新たに淡水巻貝「レンズヒラマキ」を記録

弊社の上地健琉と東京大学大気海洋研究所の浅田要氏による野外調査によって岐阜県および三重県から新たに発見された淡水巻貝「レンズヒラマキ(別名:クルマヒラマキ)」の記録が、国内のオンラインジャーナル「ニッヂエ・ライフ」に掲載されたことを報告いたします。これまで東海地方における情報が不足していた本種の分布実態の一端を明らかにしました。

## 背景

人間活動は野生生物に大きな影響を及ぼしていますが、その多くは詳細な実態が不明です。地域の生物相や種の分布域、外来種(人為的な活動によって自然分布域外に移動してしまった生物)の動向といった基礎的な知見を蓄えることは、生物多様性の保全目標を立てるうえで欠かせません。

淡水に生息する巻貝は人間活動による影響を受けやすく、多くの種が絶滅の危機に瀕しています。その中でもレンズヒラマキは、絶滅が懸念される一方で、一部地域では外来種として分布域を拡げている可能性が示唆されているユニークな種です。本種はこれまで西日本を中心に散発的な報告がなされており、東海地方ではごくわずかな記録しか確認されておりませんでした。

## 結果・考察

岐阜県と三重県で本種が見つかったのは水田や氾濫原などの浅い湿地環境で、濃尾平野の揖斐川水系周辺と伊賀盆地の淀川水系の広く分布していることが明らかになりました。例として、三重県桑名市(員弁川水系)の発見場所は弊社から徒歩圏内の水田地帯で、道路脇から水田を覗くと、多数の本種が生息しているのがひと目でわかる状況でした。このように非常に身近な環境に生息していたにもかかわらず、今まで発見されなかった理由として、大きく 2 つの可能性を考えています。

### 1. レンズヒラマキが外来種である可能性

本種は 2000 年代以降に東海地方で報告されるようになったことから、東海地方においては状況証拠的に外来種である可能性が指摘されています。その一方で、そもそも本種の自然分布域が判然としな

いことや、自然分散によって移動してきた可能性も考えられるため、慎重に判断を下す必要があります。

## 2. 水田の生物相調査が不足していること

水田は最も身近な湿地環境であり、多様な生物の生息地としての側面を持ちます。しかし意外なことに、水田に生息する生物はあまり調査されていないのが現状です。特にレンズヒラマキが含まれるヒラマキガイ科の貝類は1cmに満たない種が多く、意識して観察しなければ人目に付きにくいグループです。加えて、水田環境は農法の変化などによってその性質が大きく変動しており、ある変化がある種にとって好ましい環境を与える一方で、別の種には厳しい環境変化となる場合もあります。本種については、「もともとひっそり生息していたが近年増加したのか」「近年侵入した外来種なのか」といった由来・動向に関して、現時点では結論に至っていません。

このように、私たちの調査によってレンズヒラマキの分布実態の一端が明らかになったものの、未解決の課題はまだまだ残っています。この調査を通じて得られた知見が、本種の生物学的な特性の理解や、地域の生物多様性保全に貢献できると幸いです。

## 書誌情報

タイトル:岐阜県および三重県におけるレンズヒラマキの記録

著者:浅田 要・上地健琉

雑誌名:ニッヂエ・ライフ(Niche Life)

URL:

## 企業情報

マリノリサーチ株式会社は、水生生物の同定・計数といった分析業務を扱っています。動物・植物プランクトン、魚卵・稚仔魚、ベントス、魚介類、付着生物、水生昆虫などのあらゆる陸水・海洋水生生物の分析業務に、経験豊かなスタッフを持って対応しております。これらは源評価や環境評価などの調査・研究を行う上で、重要なデータ取得に寄与するものです。レンズヒラマキなどの淡水貝類も得意分野の一つで、ご要望に応じて様々な分析に対応しております。

## お問い合わせ

マリノリサーチ株式会社

担当者:上地健琉

〒511-0914 三重県桑名市中山町 60 番

TEL: 0594-32-9901(本社)／0594-73-4531(直通)

FAX: 0594-32-9902

Email: [uechi@marino-research.co.jp](mailto:uechi@marino-research.co.jp)

## 参考写真



三重県伊賀市市部におけるレンズヒラマキの生態写真(2018年8月9日, 上地健琉撮影)